カトリック幟町教会報
平和の鐘
編集・発行　カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）
主任司祭　後藤正史神父　　協力司祭　アルベルト神父
〒730-0016　広島市中区幟町 4 番 42 号
TEL　(082)221-0621　FAX　(082)221-8486
http://www.nobori-cho-catholic.com
2009 年 6 月号　№408

世間は「・・・力」を求め、教会は「・・・年」を祝う

シメオン後藤正史神父

「老人力」（赤瀬川原平、1998 年）が原型という「…力」本、「日本力」、「部下力」、「就活力」、「大学力」、「仕事力」といった、末尾に「力」のついたタイトルの本が最近、よく目につくようになりました。簡潔なタイトルは読者に通じやすく、それぞれのイメージをふくらませやすいということもあるでしょう。他に、「地頭(じあたま)力」、「現場力」、「頑固力」、「現役力」、「鈍感力」、「患者力」、「元気力」、「悩む力」、「鬱(うつ)の力」、「察知力」などなど。自己啓発的な本が多く、これを身に付けていれば大丈夫という絶対的な力への欲求、継続的に身につきそうだとの期待などを「…力」が満たしてくれそうだというのです。

一方、教会では、広島教区は戦後・被爆 50 年に当たり、「広島平和年」（1995 年）を過ごし、「過去を忘れず、覚えていることは将来に向かって行動を起こすこと」というヨハネ・パウロ二世教皇の平和アピールの実践を図りました。そして、世界の教会と共に「大聖年」（2000 年）を祝いながら、国境民族の壁、歴史の壁を超えて、手を取り合い、共なる喜びの恵みが三姉妹教区（韓国・プサン教区、フィリピン・インファンタ教区、広島教区）の縁組みを通して、与えられました。また、一時期、毎年のようにあちこちの教会で「献堂〇〇周年」が記念され、2008 年のペトロ・パウロの祝日（6 月 29 日）から一年間を「パウロ年」として過ごし、パウロの宣教活動から宣教の熱意を学ぼうとしてきました。そして、今年 2009 年 6 月 19 日から一年間、教会の中での司祭のあり方を深くとらえ直し、教会をイキイキしたものにしようと、「司祭年」とすることをベネディクト十六世は宣言した。こうして、「…年」の祝いは続いている。

では、「…力」と「…年」の接点はあるのでしょうか。ないようで、ある確かにあるようです。否定的な要素や葛藤の歴史を乗り越えてこそ、本人（当事者）の底に秘められている力があふれ出てくるというところです。ただ、神により頼むかどうかということは大きな分かれ目とも言えます。信仰者は根本から変革されて、「和解をもたらす新しい人として」歩むすばらしい力が与えられることを信じる、あくまでも希望の人でありましょう。

「平和」を思う

私たちにとって大切な平和旬間等、平和について特に祈念する日を前に、私たちの家族の平和の思いを紹介させていただきます。

戦前の広島からカトリック入門に到るまで

フランシスコJK

～3日目入市では原爆を語れない～

原爆当時は１８歳の学生でした。徴兵検査の年齢引き下げで合格したものの理科系であることで入営延期、軍需工場への勤労動員も戦争が激化してからの動員実施で、それも原爆投下の三ヶ月前でした。場所は三原市。ロケット燃料の蒸留濃縮工場が建設中でサンプリングと検査が仕事でした。

８月６日の夕刻には「広島が爆撃で大被害らしい」という情報を聞かされていましたが、山陽本線が動き始めたのは８日で、３日間の特別休暇を許可されました。広島駅へ着いた時、日暮れの陽をバックに真っ黒な似島を見たのが、目に焼きついています。一面焼け野原ですが、あちこちで電信柱がまだ燃えているのが不気味でした。南千田町の家は全壊でしたが、広島大学工学部より北側は焼けていたものの、南側で火災は免れていました。その校庭に蚊帳をつり多くの人が野宿しており、その中に頭にけがをした母と無事な父を見つけ、先ずは一安心でした。

しかし、この時すでに、広島女学院の英語教師をしていた姉が嫁ぎ先の防空壕でやられたらしいという連絡が届いていました。翌日、爆心地から１キロほどの鉄砲町の焼け跡を掘り、小さな骨片になった姉を土砂とともに父母のところに届けました。空襲を警戒して夜は疎開先で寝ることにしていたのに、５日の夜に限り広島へ泊まったのだと親の嘆きはことさらでした。嫁ぎ先の母親は防空壕へ入り遅れ、猛火の中を疎開先まで辿りついたことも聞いていましたので、９日にはその三入村を訪ねました。しかし髪は抜け始め、口から血の塊を吐き出す力も無く、手の施しようも無い有様で、原爆の恐ろしさを知らされました。

～原爆投下３年前この姉が私をキリスト教会へ誘った～

私たち家族は父の転勤で東京から広島へ帰ってきたのですが、姉は東洋英和女学院から広島女学院へと転校、いずれもプロテスタントの学校でした。姉は上八丁堀の組合教会に通う熱心な信者で、やはり熱心な信者の家へ嫁ぎました。私たち家族もさそわれて教会へ通いました。この教会は戦後再建されないままだったようです。

時を経て社会人となり、結婚後家内はカトリック、そして子供も幼児洗礼を受け、学校もカトリック系。当然孫も幼児洗礼を受け、降参した私は願い出てようやく、2007 年許されてカトリックの洗礼を授けられ、また 2008 年堅信の秘蹟を受けることが出来たのです。子供たちの家庭ともそれぞれ別々に暮らしていますが、今では日曜日のミサに子供や孫たちと集うことができてうれしく思います。

これからも、姉から受け継いだ信仰の灯が消えることなく、家族へと代々継承していくことを願っています。神に感謝。

津和野巡礼に参加して

インマヌエルNK(高 2)

５月２日、３日に毎年行われている乙女峠の巡礼に参加しました。２日にあった巡礼では、子供から大人まで多くの人が参加し、中高生や青年のリーダーさんなどが多くいました。

この巡礼は、徳佐駅から、途中で休憩ごとにお祈りをしながら、３時間くらいかけて、津和野教会まで歩くというものです。

僕は今回、２回目の参加でした。前回参加したときは、22 時集合でとても暗かったのですが、今回は 17 時から歩き始めたので、歩いている間は結構明るい時間が多かったです。僕としては、前回のように暗い中を歩くほうが、雰囲気的にすきでした。

普段あまり歩かない僕たちにとって途中長い坂道もある道のりを３時間近く歩くのは結構大変なことでしたが、他の県の教会の友達といろいろと話しながら歩いたのでとても楽しかったです。この巡礼では、祈りや他の教会の同世代の人との交流など有意義な時間をすごせるので、ぜひ多くの人に参加してもらいたいと思いました。

３日の乙女峠祭りには、全国から多くの人が集まり、祈りながら歩きました。高校生も多く参加していて、ミサの後などでは、久しぶりに会う人と話したりして、それもまた楽しみの一つだったり…。

いろいろ楽しみなどもあり、また来年からも是非参加しようと思いました。

堅信おめでとうございます

5 月 31 日聖霊降臨の祭日に、22 人の方々が堅信の秘跡を受けました。私たち共同体の家族たちが、聖霊の導きに従い、日常生活の中で神の国の実現に向けて働くことを誓い、共に働く喜びを感じてもらえるよう、皆様の応援をよろしくお願いします。

シリーズ　共同体を支えて

教会はどのように運営されているのでしょうか？役職者以外にボランティアとして働いて居られる多くの方々の姿を紹介しています。

● 教会の庭『手入れ』

私たちの教会には庭があります。毎月第一日曜日のミサ後には、教会に来られる方々を気持ちよく迎えるために、皆で一斉に掃除をします。

しかし、何時も綺麗になっているのは、それだけではなく、日頃から愛情込めて庭を手入れしている方々の努力があるからです。施設係を中心に、毎日のように何人かが来られて、教会敷地の内外の整備をしてくださっています。

編集後記

先日、五島を観光で訪れました。もともとタクシーで回る観光コースでしたが、運転手さんに無理を言っていくつか教会を駆け足で巡りました。五島の教会群は世界遺産候補地でもあり、地元の方の期待の高さも感じました。世界遺産になれば、観光客も増えますが、心静かに祈る場としての価値は下がるかもしれないという危惧もいだきます。しかし、教会の本分は宣教にあるので、キリストに無縁の方への関心が高まることになれば、本来の姿だと思います。いずれも献堂から 100 年、信仰の長さは計り知れずと･･･改めて信仰の力を感じた旅でした。（ひ）

頭ケ崎教会

石を切り出して
造られた教会です。

堂崎教会

長崎県の有形文化財に
指定されている煉瓦造
りの教会。

江袋教会

2 年前に消失した聖堂を、柱等をそのまま活かしながらの復旧工事中でした。多額の費用がかかるため一般からも寄付を募っていました。